

**高谷中学校ブロック**  
**第6回 義務教育学校の設置に関する検討会**  
**別冊資料**

資料1：施設分離型 義務教育学校の実施例

- (1) 東大阪市の取り組み
- (2) 東大阪市立義務教育学校 くすは縄手南校

資料2：小中一貫型小学校・中学校の実践例

- (1) 三鷹市の取り組み
- (2) 京都市の取り組み

## 資料1：施設分離型 義務教育学校

### (1) 大阪府東大阪市の取り組み

東大阪は、令和元年度より全中学校区（25中学校区）で小中一貫教育を実施し、23中学校区を「小中一貫教育実施校（小中一貫型小学校・中学校）」、2中学校区を「義務教育学校（施設分離型）」としている。

重点的な取り組みとして「6年生の中学校登校」や「6年生の一部教科担任制」、「5・6年生の定期テスト」を実施し、学校移行期における円滑な接続と適応と確かな学力の定着を図っている。

また、東大阪市独自の教科「未来市民教育『夢TRY科』」を実施し、郷土を大切に、広く世界に開かれた視野を持つ感覚と、多様な人との協働をもとに活躍できる力の育成を目指している。

### (2) 東大阪市立義務教育学校 くすは縄手南校（令和元年度から実施）

#### ① 6年—3年制を実施（前期校舎と後期校舎）

- ・前期校舎…約700人、後期校舎…約400人
- ・前期校舎と後期校舎の間は約800m離れている。

#### ② 6年生の一部教科担任制の実施状況

- ・学級担任が担当 …算数
- ・学年の教員で分担 …国語、社会
- ・専科教員が担当 …理科、英語、家庭科、音楽
- ・後期課程の教員が担当…体育

#### ③ 6年生の後期校舎への登校状況

- ・年間14日間実施予定…各学期（3期制）に3回ずつ、9日間

クラブ体験	5日間
合計	14日間

※緊急事態宣言発令のため、1学期は中止

#### ④ 施設分離型のメリットとデメリット（前期課程の教頭先生より聞き取り）

<メリット>

- ・6年生のリーダーシップが活かせる。
- ・コロナ禍の中、前期課程と後期課程が分離していることで、密を避けられる。

<デメリット>

- ・1つの学校としての意識を持ちにくい（児童生徒、教職員、保護者、地域）  
→ 児童と生徒の交流や教職員同士のコミュニケーションがとりづらい。

資料2：小中一貫型小学校・中学校

(1) 東京都三鷹市の取り組み>

三鷹市では、市内にある小学校（15校）と中学校（7校）を、平成21年度から、中学校ブロックごとに市内全ての学校を「小中一貫型小学校・中学校」とし（通称名を〇〇学園としている）、既存の小・中学校の枠組みを維持したまま、コミュニティー・スクールを基盤として、学校と家庭と地域とが協力して子供たちの9年間の教育を支えている市である。（図1）

<図1>



① 小・中一貫教育校（学園）の特色ある学園運営

ア 児童生徒、教職員、保護者が学園への愛着や所属感等を高めるために、

・通称名を設ける。 例)

三鷹市立第五小学校  
三鷹市立高山小学校  
三鷹市立第三中学校



三鷹の森学園



・学園の校歌、校旗を設ける。 例) 三鷹の森学園 校旗

イ 義務教育期間の一貫した教育、学校運営を行うために、小、中一貫教育校（学園）としての「教育目標」「めざす児童・生徒像」を定める。

ウ 学園運営を遠隔、組織的に進めるために、

- ・各学校の校長の中から「学園長」「副学園長」を置く。
- ・小、中一貫教育校を構成する学校園で校務分掌組織に統一性をもたせる。
- ・小、中一貫教育校（学園）の運営委員会を定期的に開催し、教職員同士の連携を図る。

エ 教員の義務教育9年間の教育への責任感・使命感の高揚のために、

- ・各学校間で校務分掌組織に統一性を持たせ、全ての教員が、小・中学校両方の教員となるよう、東京都教育委員会から「兼務発令」されている。

② 小・中一貫教育校（学園）の特色ある教育活動

ア 小・中の連続性

- ・小学校間学年交流の実施
- ・小学校中学年以上での学年内一部教科担任制の導入
- ・小、中学校教員による相互乗り入れ授業の実施



中一ギャップの減少

- ・小、中学校間の交流行事の実施（部活動、児童・生徒会等）

イ 小学校一年生からの英語教育の実施

- ・ICT（情報教育）の充実
- ・キャリア教育、アントレプレナーシップ教育の実施
- ・地域学習

ウ 小・中一貫教育校（学園）のコミュニティー・スクール

- ・学校運営協議会「コミュニティー・スクール委員会」  
全ての学校に「学校運営協議会」を設置し、学園には学校運営協議会の協議機関である「コミュニティー・スクール委員会」を設置している。

(2) 京都府京都市の取組み

「京都市立御所南小学校」、「京都市立高倉小学校」、「京都市立御所東小学校（平成30年度から加わった）」、「京都市立京都御池中学校」の3小1中の4校で、平成19年度から、「小中一貫型小学校・中学校」として取り組みを開始した。

小学1年生から5年生が、それぞれの小学校で学習し、2つの小学校の6年生が、中学校の校舎で学習するという「5・4制」を実施している。

高倉小学校



御所南小学校



御所東小学校  
(H30年度から)



御池中学校



① 小・中一貫教育校の特色ある学校運営

ア 小・小の連携、小・中の連携

- ・2つの小学校の6年生を「6年学年団」として位置づけ、合同の委員会を組織している。
- ・「交流委員会」は、2つの小学校の交流活動に関する企画・実践を行っている。

例) 合同朝会を企画 … 小中3校の校長からの講話や各委員会から発表等を行う。

- ・小学5年生で、中学校校舎利用体験、中学校の授業体験など、中学校への接続を意識した活動を行っている。

イ 小学校6年生教員の接続の役割を重視

- ・小学校と中学校をつなぐ役割として、小学校6年生を担当する教員が担う。

取組み① 中学校の校務分掌への位置づけ（小学校との調整）

取組み② 中学校の研究体制への位置づけ（小学校の研究との調整）

取組み③ 中学校教員が小学校での合同授業の調整（小中一貫担当教員と共に）

② 小・中一貫教育の特色ある教育活動

ア 「5・4制」の導入

- ・基盤期 5年間 キーステージⅠ（小1・2年生）  
キーステージⅡ（小3・4・5年生）
- ・伸長期 4年間 キーステージⅢ（小6年・中1）  
キーステージⅣ（中2・中3）

イ 独自の教科の設置…「読解科」の創設（中学校では、「読解の時間」も創設）

ウ 小中教員によるTT授業

- ・小学校の「理科」「英語活動」「音楽科」「図画工作科」の授業に、中学校教員が入り、小学校教員との同業授業を実施

エ 小・中一貫教育校のコミュニティー・スクール

- ・3校にそれぞれ学校運営協議会があり、それぞれに通称名をつけている。
  - 京都御池中学校 「けやきプロジェクト」
  - 御所南小学校 「御所南コミュニティー」
  - 高倉小学校 「スマイル21プラン委員会」